

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：32634

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730154

研究課題名(和文)西ドイツの大連立政権の東方政策に関する研究

研究課題名(英文)The Ostpolitik of West Germany under the Grand Coalition Government

研究代表者

妹尾 哲志 (Senoo, Tetsuji)

専修大学・法学部・准教授

研究者番号：50580776

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大連立政権期の東方政策に関して、外交交渉、政党政治、国内政治の三つの観点から検討した。研究の成果として、共著や雑誌論文の刊行、国際セミナーを含む学会報告などを行った。これらを通じて、大連立政権の東方政策が、政権を構成するキリスト教民主同盟/社会同盟とドイツ社会民主党の間の対立をはじめとする様々な制約の中で、後のブランド政権の東方政策による革新的要素を準備しつつも、それを政権期間内には実現できなかった背景を分析することができた。

研究成果の概要(英文)：This research project examines the Ostpolitik of West Germany under the Grand Coalition Government from 1966 to 1969. The new elements of Ostpolitik cannot be understood without exploring the discussions under the Grand Coalition Government, in which Willy Brandt was Vice Chancellor and Foreign Minister, especially focusing on the conflicts existing within the ruling parties, i.e. Christian Democratic Union (CDU)/Christian Social Union (CSU) and the Social Democratic Party of Germany (SPD), regarding the Ostpolitik.

研究分野：国際関係論

キーワード：冷戦史 ドイツ外交 東方政策 国際関係論 外交史 国際政治 ヨーロッパ政治

1. 研究開始当初の背景

西ドイツの大連立政権期は、戦後長らく政権を維持してきたキリスト教民主同盟 / 社会同盟 (CDU/CSU) が、最大野党ドイツ社会民主党 (SPD) と初めて連立を組み、その後の SPD 主導のブランド内閣成立による政権交代を招いた「過渡期」として、学術的関心を集めてきた。大連立政権の東方政策については、連立を構成する二大政党間の対立点であったために停滞したのか、後のブランド政権の東方政策の成功に繋がる要素に注目するので評価が分かれる。この二つの評価は、約半世紀に渡る分断を克服し 1990 年に実現した東西ドイツ統一に、二大政党のどちらがより貢献したのかに関する見方と深くかかわる重要な論点である。

2. 研究の目的

本研究では、三カ年に渡り、大連立政権の外交政策に関して次の三つの視座から分析を試みた。

・外交交渉：ソ連をはじめとした東側諸国との交渉と併せて、並行したアメリカをはじめとする西側諸国との意見調整を跡付ける。

・政党政治：大連立を構成するドイツ社会民主党 (SPD) やキリスト教民主同盟 / 社会同盟 (CDU/CSU) の東方政策を中心とした外交政策に関する意思決定過程を考察する。

・国内政治：いわゆる 68 年世代の動きに配慮しつつ大連立政権の外交政策に対する反応を中心に検討する。

本研究では以上の三つの視座から大連立政権の東方政策を検討し、ドイツ外交史研究や冷戦史研究における意義を明らかにし、さらに政党政治や西ドイツ国内政治との相互作用に着目することで、未刊行史料を含む一次史料に基づく実証研究にとどまらない国際関係論における理論的含意を探った。

3. 研究の方法

本研究では、大連立政権の東方政策について、未刊行史料を含む一次史料等を用いる外交史的な研究方法と、国際関係論や政治学の理論的アプローチの二つを軸に、三カ年に渡って、「研究の目的」で挙げた三つの視座から研究した。

まず本研究は第一次史料等を利用する実証研究の特徴を有することから、次の文書館において現地調査を行った。すなわち、ドイツのボンフリードリッヒ・エーベルト財団の文書館、ボン近郊のアデナウアー財団の文書館、コブレンツの連邦文書館、ベルリンのドイツ外務省文書館である。以上の調査に加えて、ボン大学の図書館で文献収集及び複写

を行った。

これらの調査に基づき、大連立政権の東方政策に関する時系列的整理を行った。一方で、国際関係論におけるとりわけ外交と内政の連関に関する研究を中心とした文献調査に取り組み、政党政治や国内政治の視点に目配りして理論的考察を行った。

4. 研究成果

本研究の成果として、現地調査等を通じて収集した文献や史料に基づき、大連立政権の東方政策に関して次のような知見を得ることができた。まず、ソ連をはじめとした東側諸国との関係改善を図ることにに関して、連立政権内の意見対立が激しかったことが、結果としてソ連や東ドイツとの意見交換を頓挫させることになった点が注目される。とりわけ、核不拡散条約 (NPT) に対する政権内の姿勢の相違に着目し、条約調印に積極的なブランド外相らと、条約自体に猛反発するシュトラウスらの激しい対立に関して分析した。このテーマについては国際セミナーで報告を行い、その論考を論文集に掲載したほか、ワークショップでコメンテーターを務めた。また、大連立政権による東側諸国との関係改善の取り組みにおいて、とりわけポーランドとの関係に焦点を当て、政党間対立や西ドイツ国内の議論を踏まえたテーマに関して公開講座や国際セミナーで報告を行い、その論考を論文集などで公表した。加えて、東方政策と並行した西側諸国との意見調整について、ヨーロッパ統合を進める中で自己主張を強めるドイツの現在を念頭に置きつつ考察した。これのテーマについても国際セミナーで報告を行い、その論考を論文集で発表した。

これらの研究成果を通じて、大連立政権の東方政策が、後のブランド政権の推進する東方政策における革新的要素を内在させつつも、政権内の激しい対立などが制約となってソ連をはじめとする東側諸国との関係改善で突破口を開けなかった点を明らかにした。これに関連して、ドイツ外交史研究や冷戦史研究の文脈では、大連立政権期とブランド政権期の東方政策の間で、「継続性」よりむしろ「変化」した点が注目されると考えられる。一方で西側諸国との意見調整に関しては、大連立政権が東側への硬直した態度ゆえに西側陣営内で孤立する恐れがあったことを指摘した。それによって、ブランド政権期の東方政策が不安を与えつつも結果として追認された背景に関する理解を深めると同時に、大連立政権期にブランド外相らが西側陣営内での孤立を回避することを積極的な東方政策推進の一つの動機としていたことを明らかにした点もドイツ外交史研究や冷戦史研究に寄与するものと考えられる。さらには、理論的考察として、外交交渉と連立政権内対立、そして西ドイツ国内政治の三つの視座から東方政策を分析し、とりわけ政権内の意見

対立が大きな影響を与えた点に着目した。こうした視角は、一次史料などに基づく外交史研究と理論研究の架橋の試みとしても位置付けることが可能である。

今後の展望としては、ブランド政権及び大連立政権の東方政策に関する研究を踏まえ、その後のシュミット政権やコール政権の東方政策に考察を進め、東方政策がヨーロッパにおける冷戦の終焉や1990年の東西ドイツ統一にいかにか寄与をしたのかについての研究にも取り組む予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1. 妹尾哲志、「国境をめぐる国際紛争—冷戦期の西ドイツとポーランドを事例として」、『専修大学法学研究所所報』50、41-52頁、2015年(査読無)

2. Tetsuji Senoo、「The border issues of Germany during the Cold War: the meanings of Willy Brandt's Ostpolitik」、『Asian Issues: Journal for Regional Asian Studies』第1号、pp. 37-42、2012年(査読有)

3. Tetsuji Senoo、「If there is to be a policy of détente, then we will do it and not you': Willy Brandt's Ostpolitik and German-American Relations」、『University of Tokyo Journal of Law and Politics』第9号、pp. 81-91、2012年(査読無)

[学会発表](計11件)

1. 妹尾哲志、「国家とは何か、国境とは何か—国際法と国際政治から考える」、学生と市民のための公開講座『法律学と政治学の最前線』、2014年11月28日、専修大学(東京都)

2. 妹尾哲志、「コメント「西ドイツの核政策」」、ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)公開ワークショップ「日独外務省政策担当者秘密協議と日本の核武装」、2014年11月17日、東京大学(東京都)

3. Tetsuji Senoo、「Germany's Ostpolitik and the NPT under the Grand Coalition Government」、Institute of International Politics and Economics, International Conference, "Major international issues in the 21st Century – from perspective of Japan and Europe"、2014年9月15日、Belgrade (Serbia).

4. 妹尾哲志、「ドイツ分断克服への構想とブランド外交」、ドイツ現代史研究会2014年1月例会、2014年1月26日、キャンパスプラザ京都(京都府)

5. Tetsuji Senoo、「Lessons from German Policy of Reconciliation? Willy Brandt's Ostpolitik and its implications for Regionalism」、Institute of International Politics and Economics, International Conference, "Regionalism and Reconciliation"、2013年9月9日、Belgrade (Serbia).

6. 妹尾哲志、「コメンテーター:「危機の年」と「ドイツをめぐる諸問題」—青野利彦著『「危機の年」の冷戦と同盟—ベルリン、キューバ、デタント、1961-63年』(有斐閣、2012年)をめぐる」、世界政治研究会、2013年5月17日、山上会館(東京都)

7. 妹尾哲志、「拙著『戦後西ドイツ外交の分水嶺—東方政策と分断克服の戦略、1963~1975年』に関して」、EUIJ(EU Institute in Japan)関西政治グループ研究会、2012年9月29日、神戸大学(兵庫県)

8. 妹尾哲志、「『戦後西ドイツ外交の分水嶺—東方政策と分断克服の戦略、1963~1975年』について」、GRIPS(政策研究大学院大学)研究会、2012年9月21日、政策研究大学院大学(東京都)

9. Tetsuji Senoo、「Revival of German hegemony in Europe?: Germany, the Ostpolitik and Europe」、Institute for International Relations, University of Zagreb, "Dealing with the regional challenges: Europe & Asia"、2012年9月13日、Zagreb (Croatia).

10. Tetsuji Senoo、「A new German hegemony in Europe?: German foreign policy and European Integration」、Institute of International Politics and Economics, University of Belgrade, "Challenge of the 21st Century and the Region"、2012年9月11日、Belgrade (Serbia).

11. Tetsuji Senoo、「A small step towards a 'German Europe?': Germany, the Ostpolitik and Europe」、Faculty of Political Sciences, University of Belgrade, "Asia 2012—Developments and Challenges and Promotion of the first issue of the CAFES's magazine Asian Issues"、2012年9月10日、Belgrade (Serbia).

〔図書〕(計5件)

1. Tetsuji Senoo, 「Germany's Ostpolitik and the NPT under the Grand Coalition Government, 1966-1969」, Taro Tsukimura and Ivona Ladevac (eds.), Major International Issues in the 21th Century from a Perspective of Japan and Europe, Institute of International Politics and Economics, Belgrade; Global Resource Management, Doshisha University, Japan, Belgrade, pp. 99-108, 2015.

2. Tetsuji Senoo, 「Lessons from the German Policy of Reconciliation: Willy Brandt's *Ostpolitik*, Regionalism and Reconciliation, German-Polish relations and its implications for regionalism」, Dusko Dimitrijevic, Ana Jovic-Lazic, and Ivona Ladevac (eds.), Regionalism and Reconciliation, Institute of International Politics and Economics, Belgrade; Global Resource Management, Doshisha University, Japan, Belgrade, pp. 33-45, 2014.

3. 妹尾哲志, 「社会民主党」, 西田慎・近藤正基[編著]『現代ドイツ政治—統一後の20年』, ミネルヴァ書房, 57-82頁, 2014年。

4. Tetsuji Senoo, 「A small step toward a 'German Europe'? Germany, the Ostpolitik and Europe」, Dusko Dimitrijevic and Ivona Ladevac (eds.), Challenge of the 21st Century and the Region, Institute of International Politics and Economics, Belgrade, Belgrade, pp. 73-79, 2013.

5. 妹尾哲志, 「デタントと動揺する欧米世界—ニクソンとブランド」, 益田実・小川浩之[編]『欧米政治外交史 1871~2012』, ミネルヴァ書房, 201-225頁, 2013年。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

妹尾 哲志 (SENOO TETSUJI)
専修大学・法学部・准教授
研究者番号：50580776

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：